

琉球大学学術リポジトリ

沖縄の農業用水－農業用水使用量の推移について－

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉永, 安俊 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016814

5. 沖縄の農業用水 －農業用水使用量の推移について－

琉大農 吉永安俊

沖縄の農業は天水依存形に近い状態である。とりわけ畑地農業に関しては全くの天水依存形であった。稲作についてはカンガイが行われていたが、少ない水源に頼る半天水田的な地域も多かった。1730年代に書かれた農務帳に、「当琉球国の水田はほとんど自然の雨水に頼っている天水田なので、あらかじめその対策を立てて、掘りやすいところでは、溜池を掘り、水不足の難儀をしのごよう手段をつくしなさい。もちろん稲を刈り取ったらすぐにアゼを固め水を溜めておくようにすること。」という一節がある。やはり天水依存の水田の多かったことをうかがわせる。

今回は、このような状況下における沖縄農業の水使用量とその推移について調べてみた。

過去の農業用水使用量の記録はほとんどなく、これらの正確な把握が非常に難しい。農業用水使用量の推定は作物の消費水量とその栽培面積及びカンガイ期間中の有効雨量とから行うことができる。今回はこの観点から、沖縄における主なカンガイ対象作物について年間水使用量を推定してみた。カンガイ対象作物は、栽培面積及びカンガイ状況等を考慮して、水稻、さとうきび、葉菜類の3種とした。なお、さとうきびに関してはカンガイ施設の整った面積のみを対象とした。

1953年から1982年までの30年間の農業用水使用量の推移をみると、やはり消費水量と栽培面積の大きい水稻に影響され、水稻の作付面積と同様な傾向を示す。農業用水の使用量は1960年の1億8000万トン进行ピークに以後減少を続け、1982年はピーク時の約1/10の1700万トンである。なお近年、花き園芸、野菜のハウス栽培等が増えており、農業用水使用量に若干の変動が考えられる。